

SORA

web magazine 2019.aug. vol.114

Liloloan Philippines Travel

What is your LILLOAN COLOR?

リロアン色を探しましょう?

Photo & Story Kyu Furumi

MAP
CLICK!



10年ぶりのリロアン

これまでリロアンの海には何度も来ている。雑誌の取材で訪れる時は、比較的滞在期間も長めに取らせてもらうことが多く、毎日4〜5ダイブは当たり前。潜水時間もかなりたっぷり潜るので、毎日の充実度がかなり高い。いや相当高い。故にリロアンでの思い出もかなり濃く、SNSなどでもマリンビレッジの動向などはマメに入ってくる。ガイドの関口さんも陽子さんも「いやいやごぶさたです！」なんて相変わらずいい感じ。でも、今回はなんとなく久しぶりかなあと思っていたが、レストランに置いてある僕が最後にリロアンを取材した月刊ダイバーを見たら、なんと10年前のものじゃないですか。「えーそんなに時間が経ってたの？」関口さんと一緒に驚きつつ「その間は鍵井さんばかり来てたんですね〜！」なんて軽口を叩きながら、僕の10年ぶりのリロアン取材は始まった。あー、潜ってもいいのに楽しい。





カタカナ スゴイ!

今回もメインガイドとしてリロアンの名ガイド関口さんが案内してくれたのだが、一緒にローカルガイドのジョセスも被写体探しに潜ってくれることに。贅沢なガイド2名体制でリロアンのバラエティー溢れるマクロ生物を、時間をかけながらアレコレ撮影していく。何かの被写体の撮影が完了し、顔を上げるとジョセスが手招きして待っていた。僕が近づくとおもむろに大きなスレートを僕に見せる。そこにはカタカナで「フィリピンブレニー。バックOK」と書かれている。思わず「えっ?」と声が出てしまったが、確かに指差す先にはソフトコーラルの上に、ちょこんと乗ったフィリピンブレニーの幼魚がいた。日本語をかけるというだけでも凄いの、写真的に背景までも気にしてくれるガイディング。凄い。凄すぎる。このあと、関口さんと話していたら「元々目がすごく良くて色々と探せるのに、日本語まで完璧にこなされたら、もう僕の出番も無くなっちゃいますよ! (笑)」と話していた。これも、マクロに精通するマリンビレッジのスタイルが確立され、浸透している証拠。誰でも安心して撮影に没頭できる、細やかで丁寧なダイビングスタイルだと思います。

Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン





マクロガスゴイ！



Philippines
Liloan
フィリピン リロアン

tsumi-shima
タジマの島をつまみ取っていく島



マクロ三昧でいいじゃないか

「イラクポイント」や「ハウスリフ」「マヌリバ」といったマリンビレッジの定番の近場でありながら、抜群の生物相を誇るのがリロアンのスゴイところ。砂だまりを見ればヤマブキハゼやらニチリンダテハゼなどはわんさか居る。ガレ場でびよこびよこ顔を出しているゴールドスペック・ジョーフィッシュもレギュラーメンバーだし、写真映え最高のタルボツ・ダムゼル、ローランズ・ダムゼルの幼魚など、それこそ星の数ほどいてくれる。これだけ数が多いのだから、必然的に美しい背景と絡むシチュエーションも増えてくるのだろう。とにかくキレイでかわいい生き物が揃っているし、ダイビング的にも始めに少し深場へ落とし、徐々に浅場へ上がりながら自然に安全停止まで終えることができる理想的な環境だ。やはりリロアンでは腰を据えてマクロをじっくりと狙うのが良い。さらに写真に精通するガイドの関口さんのスペシャルフォトセミナーも随時受けられるので、生物を楽しみながら水中写真の練習もできてしまう。なんて贅沢な海なんだろう、リロアンってとこは。



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン



マクロ三昧でいいじゃないか



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン



Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン

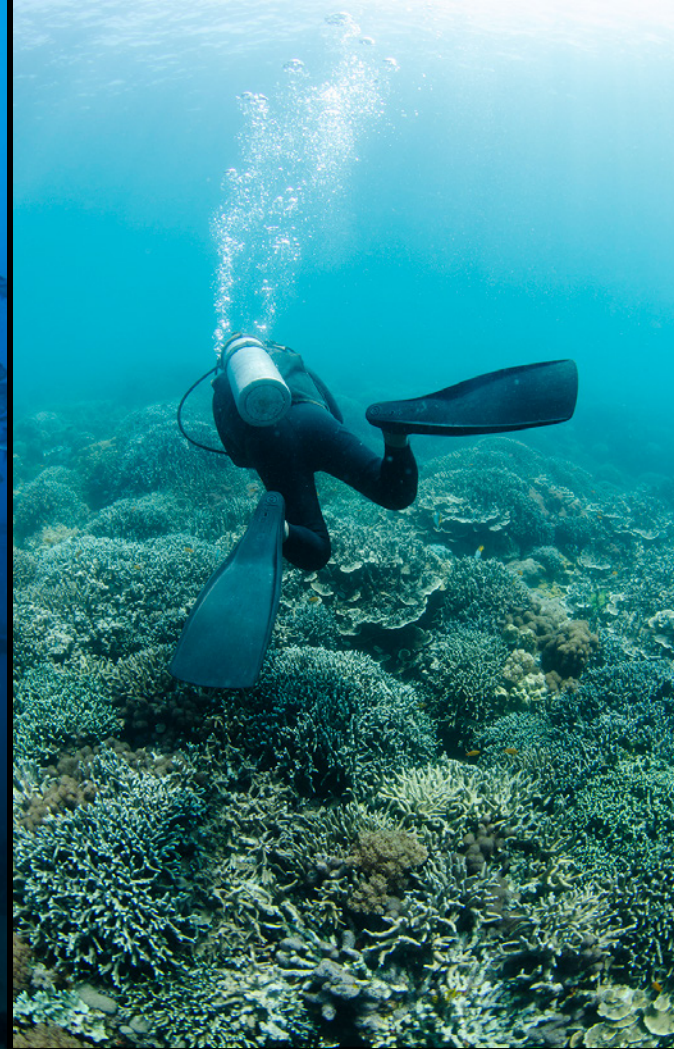


アポ島へ遠征

「久しぶりに遠征も行ってみましょうか!」と関口さんから提案をもらい1日はアポ島へ向かった。早朝リロアンを出発し、ドマゲッティの沿岸を眺めながら1時間半ほどの船旅で辿り着いたアポ島。アポの名物といえばギンガメアジの群れ。なかなかいつも同じ場所にいる訳ではないのだが、今回も見事に群れに的中! 流石な潮の読みだ。そしてサンクチュアリエリアのサンゴは、巨人のちゃぶ台のごとく大きく育ち、そこをアオウミガメたちが気持ち良さそうにスイスイと泳いでいた。いや〜ダイナミックなところでよね。マリンビレッジでの遠征ダイブはリクエストベースで、アポ島やスミロン島へ向かう。リロアンともまた趣の違った海を楽しむことができるので、ぜひ興味のある方はリクエストしてみてください。

アポ島へ遠征

Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン





Philippines
Liloan
フィリピン・リロアン



マクロに特化し、リロアン色を探してみよう!

「ダイビングもいろんな楽しみかたがあると思うんですけど、うちはもうこの環境を生かしてマクロに特化したお店にしていこうと思っているんですよね〜」マネージャーの陽子さんが話してくれた。店からポートに乗り込み、長くても3分でポイントまで到着。潜れば潜るほど見つかるマクロ生物。そして関口さんをはじめ、抜群の眼力を持ったガイド陣も揃う。これほどまでダイビングに、撮影に集中できる環境はなかなかない。「マクロオンリーショップ」最高じゃないですか! 「例えば同じ被写体でも、人によって

それぞれ見え方って違うと思うんです。僕たちはリロアンの生き物と、海の環境をそのまま皆さんに楽しんでもらえるように日々研究し、努力しています。型にはまらずに皆さんの好きな『リロアン色』を探して楽しんでもらえたらいいんじゃないでしょうか! (笑)」最高の海には最高のエンターテイナーが揃っている。また僕もリロアン色を探しに行こう! 今度は10年も空けずに (笑)。